

企業の採用広報開始から 2 カ月。2025 年卒学生の就職活動はどのように進んでいるだろうか。5 月 1 日現在のキャリタス就活・学生モニターの就職活動状況について調査を行った。内定状況のほか、内定取得後の意思決定に必要な情報やフォロー、今後の活動方針など、多岐にわたる項目を調査した。前年同期調査や先月調査との比較を中心に、全体的な活動状況を確認したい。

1. エントリー社数と会社説明会の参加社数

- 一人あたりのエントリー社数の平均は 23.9 社。前年同期調査 (23.2 社) をやや上回る
- 説明会参加社数の平均は、オンライン 13.4 社、会場型 4.9 社。それぞれ前年より 1 社増加

2. 選考試験の受験状況

- ES 提出社数、筆記試験は減少傾向。面接社数は前年を上回る (平均 7.4 社→7.6 社)
- 本選考応募企業のうち「3 月以降に興味を持った企業」の割合は約 2 割。年々減少

3. 5 月 1 日現在の内定状況 (※)

- 内定率は 76.9%。前年同期実績 (70.2%) を 6.7 ポイント上回る
- 就職活動終了者は全体の 42.2%。継続者は「内定あり」「内定なし」を合わせて 57.8%
- 文理差が大きく、文系は 7 割近くが継続 (68.4%)。理系は 4 割 (40.9%)

4. 内定を得た企業の業界

- 「情報処理・ソフトウェア」に集中 (31.7%)。2 位「建設・住宅・不動産」(17.1%)

5. 内定企業への意思決定に必要なフォローや情報

- 文理とも「社員との交流機会・面談」が最も多い。次点は「他の内定者との交流機会」
- もっと必要な情報は、「実際の仕事内容」「給与水準・平均年収」「福利厚生制度」の順

6. 就職活動継続学生の動向

- 現時点の志望業界 1 位「銀行」、2 位「情報処理・ソフトウェア」、3 位「官公庁・団体」
- 選考中の企業数は平均 3.8 社。今後のエントリー予定社数は 2.0 社。内定の有無で差異
- 今後の方針、未内定者は「新たな企業を探しながら、持ち駒企業の幅を広げていく」

7. 就活川柳

- 「勤務地と 福利厚生 譲れない」
- 「交通費 支給を願う 地方民」 など佳作を紹介

※「内定」には、内々定を含む

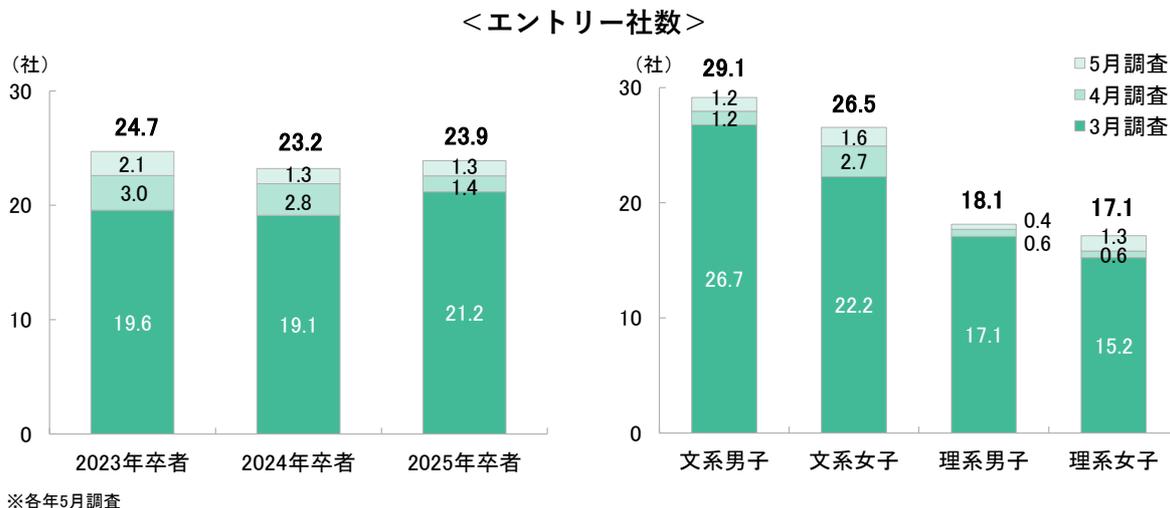
調査概要

調査対象 : 2025 年 3 月に卒業予定の大学 4 年生 (理系は大学院修士課程 2 年生含む)
回答者数 : 1,185 人 (文系男子 314 人、文系女子 412 人、理系男子 294 人、理系女子 165 人)
調査方法 : インターネット調査法
調査期間 : 2024 年 5 月 1 日~7 日
サンプリング : キャリタス就活 学生モニター2025
調査実施 : 株式会社キャリタス/キャリタスリサーチ

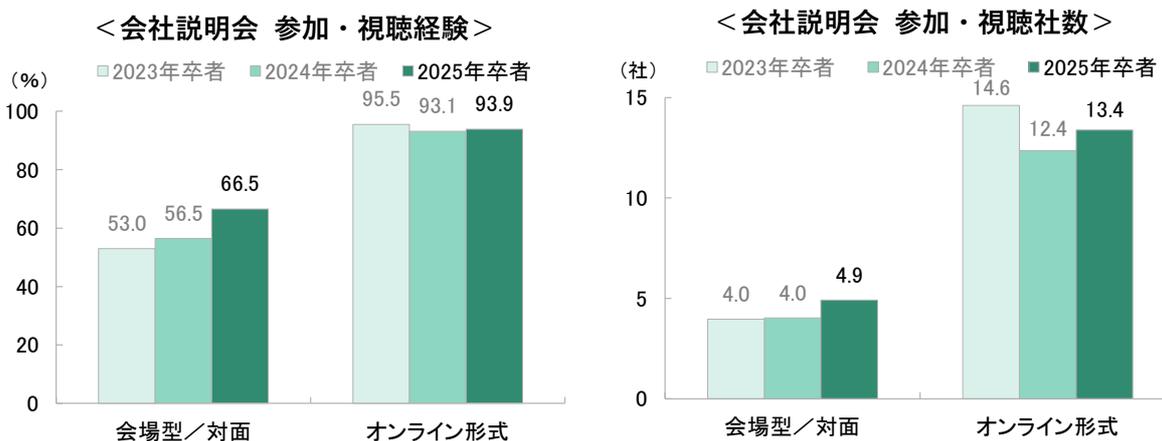
1. エントリー社数と会社説明会の参加社数

採用広報解禁から2カ月が経過した5月1日時点での、就職活動状況を調べた。

まず、一人あたりのエントリー社数の平均は23.9社で、前年同期(23.2%)をやや上回る。この1カ月での増え幅は1.3社。文理男女別に確認すると、文系に比べ理系は男女とも活動量が少なめ。特に理系男子は、この1カ月の増え幅が0.4社と少ない。



会社説明会(個別企業セミナー)の参加状況について、開催形式ごとに尋ねた。「会場型」に参加経験のある学生は前年同期調査より10ポイント増加し、6割強に上る(56.5%→66.5%)。一方「オンライン形式(WEBセミナー)」の参加経験者は、今年も全体の9割を超えた(93.9%)。参加社数は会場型が平均4.9社、オンライン形式は13.4社と、それぞれ前年より1社程度増加した。



<会社説明会 参加・視聴社数/属性別>

	全体	(前年全体)	文系男子	文系女子	理系男子	理系女子
会場型参加社数	4.9	4.0	5.7	5.0	4.5	3.8
オンライン形式視聴社数	13.4	12.4	13.7	16.7	8.7	12.3

2. 選考試験の受験状況

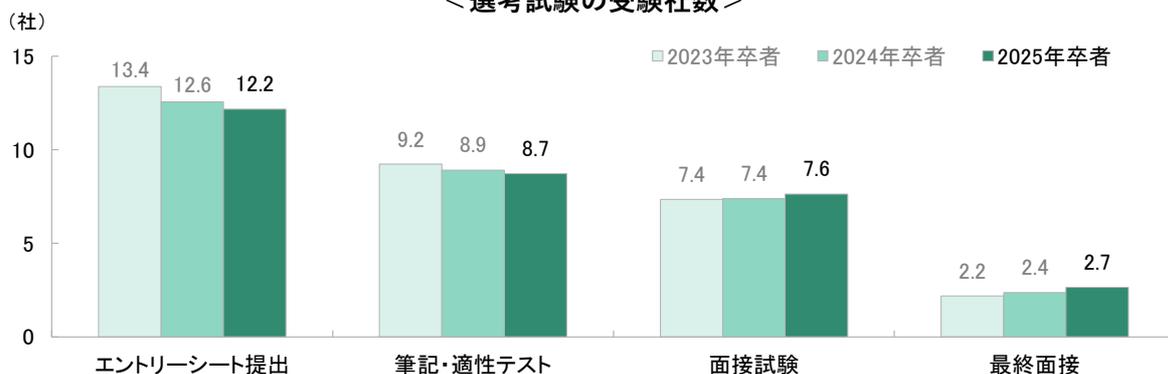
続いて、選考試験の受験状況を見てみよう。エントリーシート（ES）提出、筆記・適性テスト、面接試験まで、経験率は今年も9割を超えている。最終面接については前年同期より約4ポイント増え、8割超が経験したと回答した（83.8%）。選考の早期化に伴い、最終段階まで進むペースが早まったことが読み取れる。

一人あたりの受験社数を見てみると、ES提出社数や筆記試験の受験社数に減少傾向が認められる一方で、面接はやや増加（7.4社→7.6社）。さらに、最終面接を受けた社数は年々上昇（2.2社→2.4社→2.7社）。

<選考試験の受験状況>

	全体	(前年全体)	文系男子	文系女子	理系男子	理系女子
エントリーシートを提出した	94.5	94.2	95.2	96.4	91.5	93.9
筆記・適性テストを受けた	93.6	93.1	96.1	95.4	89.0	92.1
面接試験を受けた	92.9	92.2	93.9	94.7	88.3	94.5
最終面接を受けた	83.8	79.7	82.0	82.8	83.5	90.3

<選考試験の受験社数>

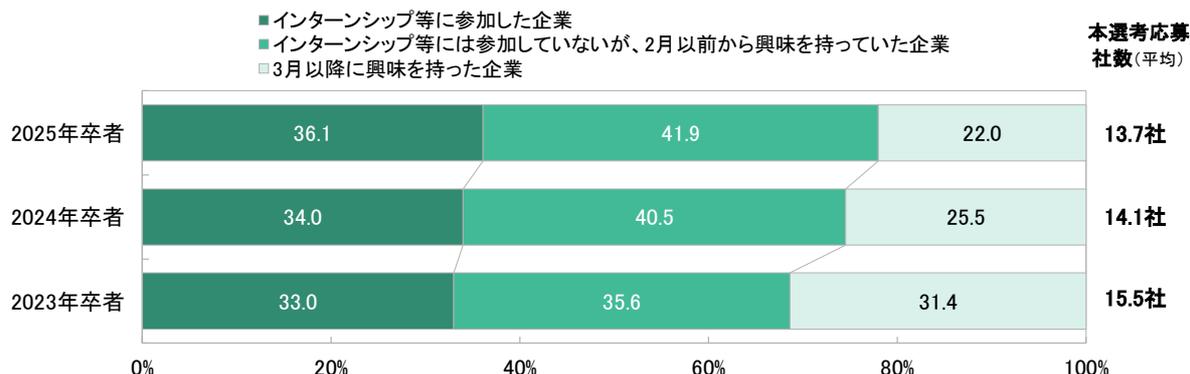


※「最終面接」は、「面接試験」受験者を分母に算出。それ以外は、それぞれ受験者を分母に算出

ES提出など本選考に応募した企業の内訳を尋ね、3カ年分を比較した。「インターンシップ等^(※)に参加した企業」と「インターンシップ等には参加していないが、2月以前から興味をもっていた企業」は増加傾向が見られ、特に後者は全体の4割以上を占めている（41.9%）。一方で「3月以降に興味を持った企業」は年々減少し、今年は22.0%。採用広報開始前のプレ期に興味を持った企業を中心に本選考に応募する傾向がさらに強まった。

(※1日以内のプログラムも含めて調査)

<本選考に応募した企業の内訳>



3. 5月1日現在の内定状況

5月1日の調査時点で内定を得ている学生は全体の76.9%。4月調査(62.8%)からの1カ月間に14ポイント余り上昇し、7割台後半に達した。前年同期調査(70.2%)を6.7ポイント上回り、引き続き早いペースで進行していることがわかる。ただ、3月以降、前年同月との差は徐々に縮まってきている(10.8ポイント差→9.9ポイント差→6.7ポイント差)。

内定率は文系より理系で高く、理系は男女とも8割に達している。

内定取得学生のうち、就職先を決めて就職活動を終了したのは46.2%。前年同期調査(40.4%)を上回り、内定後の意思決定のタイミングも早まっている。

なお、6月を選考解禁月とした初年度の2017年卒は、5月の内定率は3割弱(29.1%)だった。9年目を迎える中でルールの形骸化が著しく進んだ様子が見て取れる。

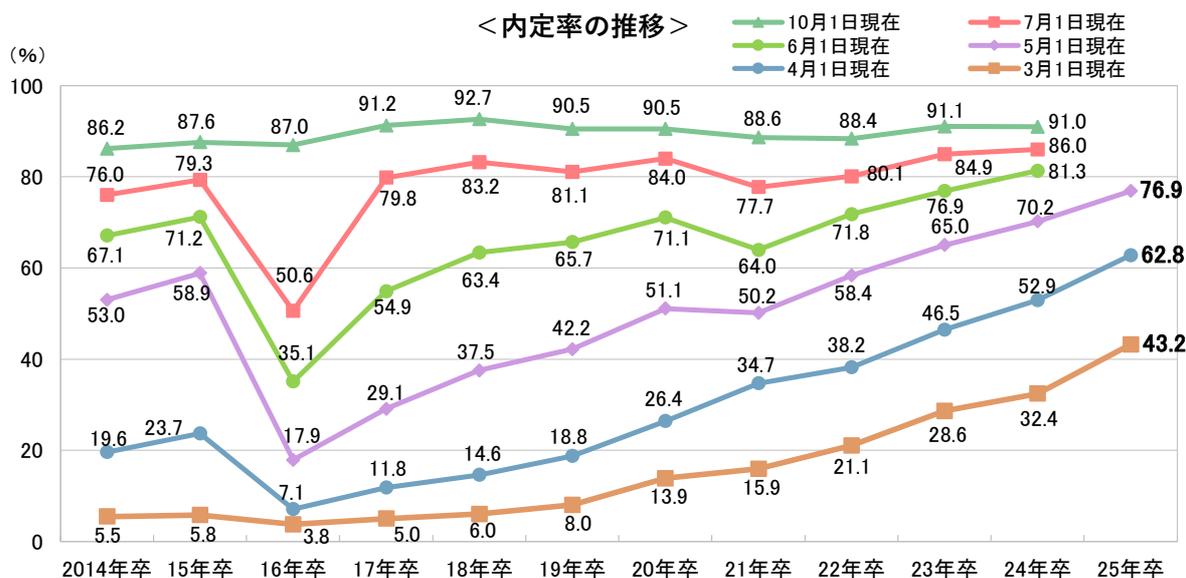
< 5月1日現在の内定状況 >

*「内定」には、内々定を含む

		(%)				
		全体	文系男子	文系女子	理系男子	理系女子
内定あり		76.9 (70.2)	72.9 (65.3)	73.5 (68.7)	80.6 (75.2)	87.8 (76.5)
内定なし		23.1 (29.8)	27.1 (34.7)	26.5 (31.3)	19.4 (24.8)	12.2 (23.5)
内定者のうち	就職先を決定し活動終了	46.2 (40.4)	33.2 (32.1)	36.3 (25.7)	61.2 (57.7)	63.3 (56.4)
	活動は終了したが複数内定保持	8.6 (7.5)	6.1 (6.9)	9.6 (8.4)	8.6 (8.4)	10.2 (5.1)
	進学などの理由で就職活動を中止	0.1 (0.7)	0.0 (0.0)	0.0 (0.4)	0.4 (1.3)	0.0 (1.7)
	就職活動継続	45.1 (51.4)	60.7 (61.1)	54.1 (65.5)	29.7 (32.6)	26.5 (36.8)

		(社)				
		全体	文系男子	文系女子	理系男子	理系女子
内定社数/平均		2.3 (2.2)	2.3 (2.1)	2.4 (2.2)	2.1 (2.1)	2.2 (2.2)

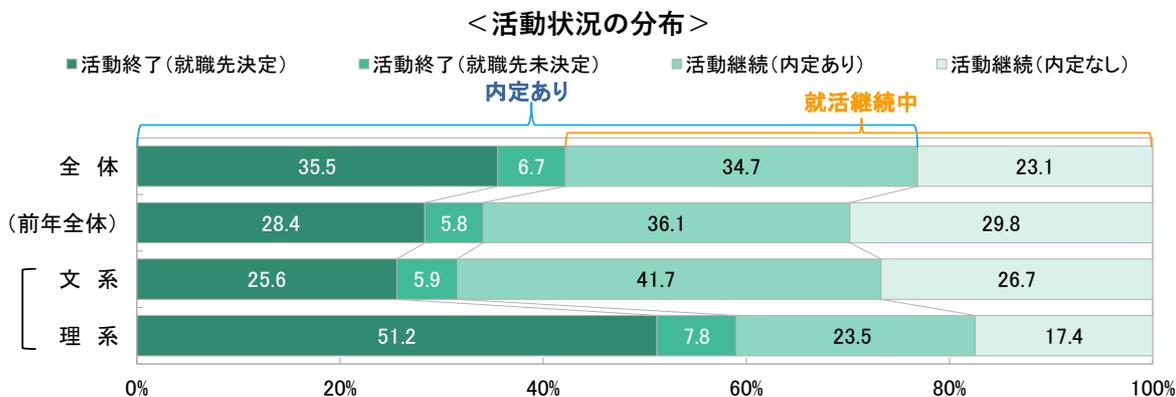
※ () 内は前年(5月1日現在)の数値



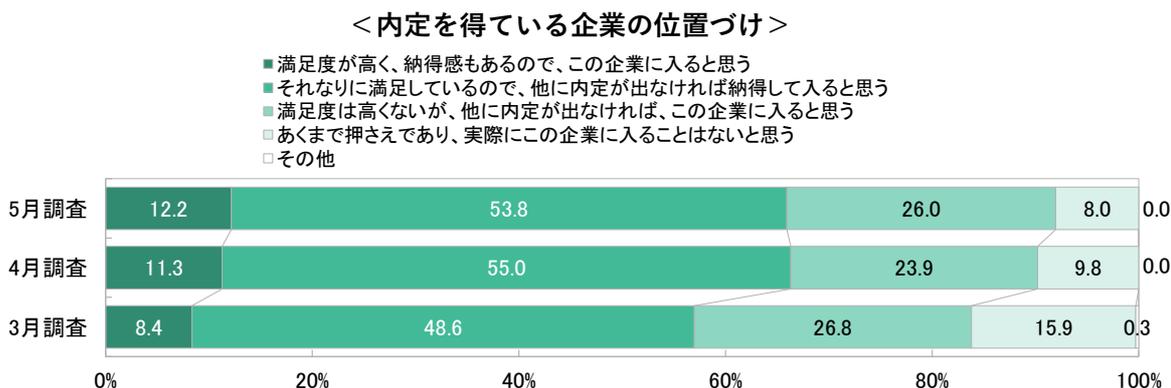
※15年卒までは選考解禁は4月、16年卒は8月、17~25卒は6月

モニター学生全体を分母にして活動状況の分布を見ると、就職先を決定して就職活動を終了した者の割合は35.5%。複数内定を保留しているなど未決定である者(6.7%)を合わせると、終了者は42.2%。

活動継続者は「内定あり」(34.7%)、「内定なし」(23.1%)を合わせて57.8%。文系において高く、内定保持者も含め文系学生の7割近く(計68.4%)が継続中と回答した(理系は同40.9%)。



内定を持ちながら活動を続ける学生(全体の34.7%)に、内定企業の位置づけを確認した。「満足度が高く、納得感もあるので、この企業に入ると思う」と、ほぼ入社を決めている割合は毎月少しずつ増加。ただ、「他に内定が出なければ…」という回答が依然大半を占め、他社次第とする学生が多い。



4. 内定を得た企業の業界

内定を得ている学生に内定企業の業界を尋ね、上位をまとめた(全40業界。複数回答あり)。「情報処理・ソフトウェア」が先月に続いて1位(31.7%)。2位は「建設・住宅・不動産」(17.1%)で、3位は「調査・コンサルタント」(14.8%)。上位3位は前年同期と同じ順位。

<内定を得た業界(上位5業界)>

全体		文系		理系	
1	情報処理・ソフトウェア・ゲームソフト ①	31.7	情報処理・ソフトウェア・ゲームソフト	28.6	情報処理・ソフトウェア・ゲームソフト
2	建設・住宅・不動産 ②	17.1	調査・コンサルタント	16.5	建設・住宅・不動産
3	調査・コンサルタント ③	14.8	人材サービス・人材紹介・人材派遣	15.6	自動車・輸送用機器
4	人材サービス・人材紹介・人材派遣 ⑤	14.1	銀行	14.8	電子・電機
5	自動車・輸送用機器 ⑦	11.2	建設・住宅・不動産	13.3	素材・化学

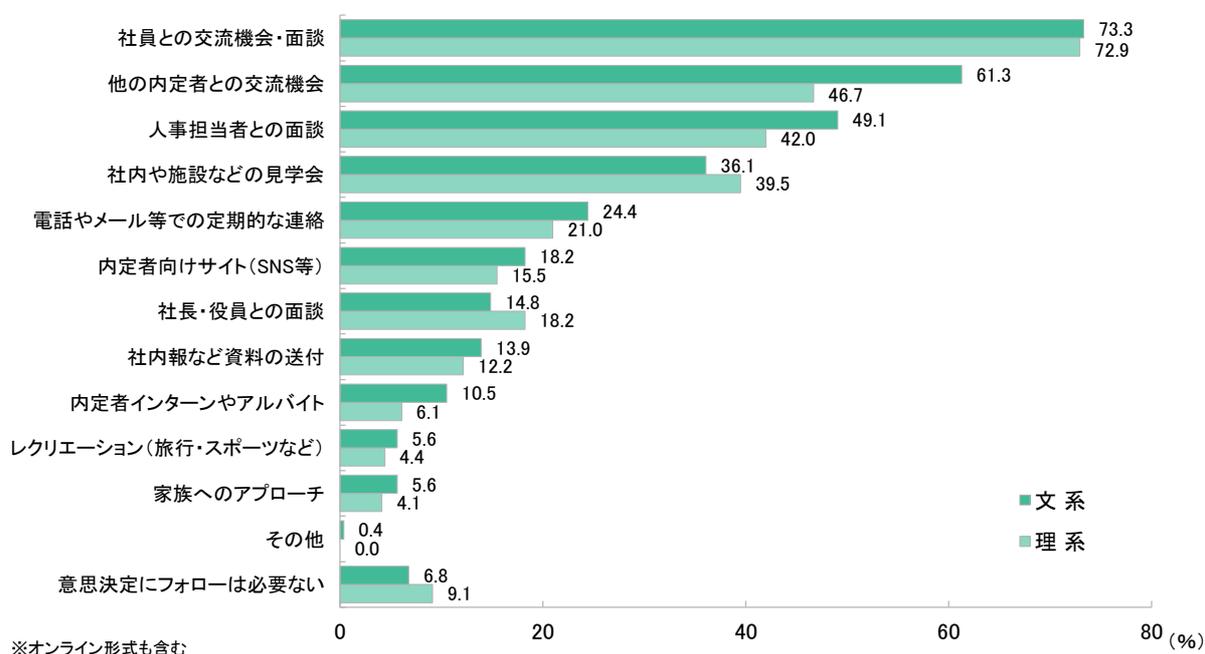
※○の中の数字は前年同調査の全体順位
 ※「その他サービス」=介護・福祉サービス、アウトソーシングなどのサービス業

5. 内定企業への意思決定に必要なフォローや情報

内定を得た企業に就職するかどうかを決めるために必要だと思うフォローについて尋ね、文理別に比較した。文理とも最も多いのは「社員との交流機会・面談」で、それぞれ7割超が選んだ(文系73.3%、理系72.9%)。現場の社員との対話を通じ、実際の仕事内容や社風、働き方の実態などを確認し、その企業で働くイメージを具体化したいと考える学生が多いようだ。

2番目も文理共通で「他の内定者との交流機会」だが、文系で6割を超えるのに対し、理系は4割台と差が見られる(14.6ポイント差)。全体的に理系より文系の方が数値の高い項目が多く、より手厚いフォローを求めていることがわかる。「意思決定にフォローは必要ない」は文理ともに1割未満(文系6.8%、理系9.1%)。

<内定企業への意思決定に必要なと思うフォロー>



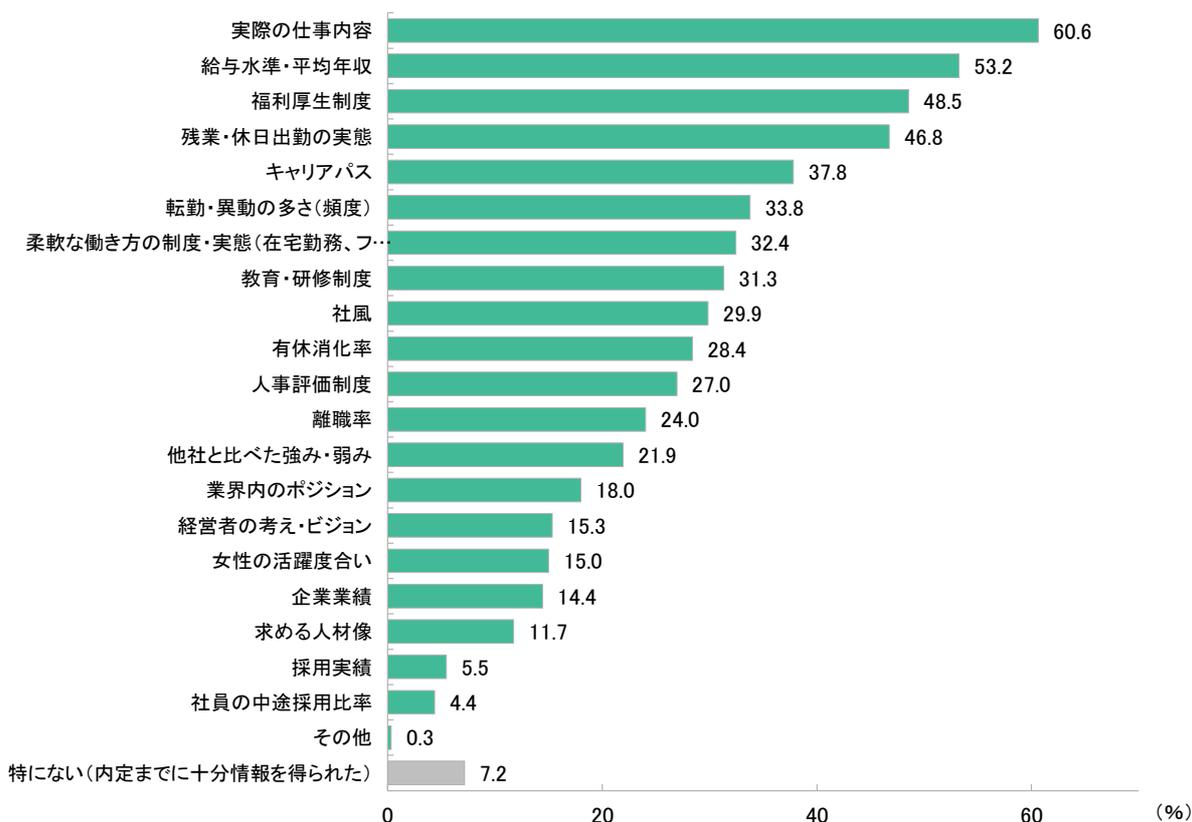
■意思決定のために必要だと思う内定後フォローや、具体的に知りたい情報

- 就職したいと思うかどうかは、最終的には自分がそこで長く働くイメージができるかどうかだと思うため、実際に働いている先輩方を見るのが大切だと思う。 <理系男子>
- 同期がどんな人達なのか知るために、内定者との交流イベントに参加したい。 <文系女子>
- 自身の就職活動の軸と、企業が目指す未来がずれていないかを、社員との交流などから知りたい。 <理系男子>
- 入社後の働き方について(業務内容、働きやすさ)は一番詳しく知りたい。 <文系女子>
- 選考中には条件面を細かく聞けないので、内定後に詳しく説明してくれた上で、こちらの質問に答えてくれる企業は印象がいい。 <理系男子>
- 福利厚生はホームページだけでは把握しきれないので、明確に説明してほしいです。特に、家賃補助は企業ごとに基準がバラバラなので、教えてほしい。 <文系男子>
- 実際に働く職場の環境や、衣食住状況(勤務服装、普段の食事、居住エリア)、福利厚生の活用例など、詳しい内部の情報を教えてもらえたら嬉しい。 <理系女子>
- 1日のスケジュールや、1年目に任される仕事など。 <文系男子>
- 配属がいつ決まって、どのくらい希望が通るのか。 <文系女子>
- 勤務地の希望がどれくらい通りやすいか。 <理系女子>

さらに、内定を得た企業について意思決定のためにもっと必要だと感じている情報は何かを確認した。最も多いのは「実際の仕事内容」で6割が選んだ(60.6%)。他に「給与水準・平均年収」(53.2%)、「福利厚生制度」(48.5%)、「残業・休日出勤の実態」(46.8%)が上位項目に挙がっている。選考中は聞きづらかった項目も、内定を得て入社 of 意思決定をする際には、しっかりと確認したい学生が多い。

また、文理男女別に見ると、女子は文理とも「残業・休日出勤の実態」「柔軟な働き方の制度・実態(在宅勤務、フレックスタイム制など)」「女性の活躍度合い」のポイントが高い。入社した後の実際の働き方や、将来像を描くにあたっての情報をより必要としていることがわかる。

<内定企業への意思決定のためにもっと必要な情報>



	文系男子	文系女子	理系男子	理系女子
実際の仕事内容	60.3	60.1	56.9	69.2
給与水準・平均年収	57.6	50.8	48.3	60.0
福利厚生制度	47.2	48.8	42.7	60.8
残業・休日出勤の実態	42.8	54.8	33.6	58.5
キャリアパス	38.9	39.9	30.6	43.8
転勤・異動の多さ(頻度)	32.3	38.3	28.4	35.4
柔軟な働き方の制度・実態(在宅勤務、フレックスタイム制など)	29.7	39.3	23.7	36.9
教育・研修制度	35.8	29.4	28.0	33.8
社風	32.3	30.4	24.1	34.6
有休消化率	31.0	34.7	17.2	29.2
人事評価制度	28.8	28.1	24.1	26.2
離職率	25.3	29.7	14.7	25.4
他社と比べた強み・弱み	21.8	23.8	15.9	28.5
業界内のポジション	22.3	18.8	13.8	16.2
経営者の考え・ビジョン	20.1	11.9	13.8	17.7
女性の活躍度合い	6.1	23.4	2.2	33.8
企業業績	18.8	11.9	13.8	13.8
求める人材像	14.4	9.9	12.1	10.8
採用実績	6.6	5.0	3.9	7.7
社員の中途採用比率	5.7	5.0	2.2	4.6
その他	0.0	0.3	0.9	0.0
特にない(内定までに十分情報を得られた)	9.6	4.3	8.6	6.9

6. 就職活動継続学生の動向

内定保持者を含め就職活動を継続している学生（全体の57.8%）の動向を確認したい。

現時点の志望業界で最も多いのは「銀行」(15.4%)。文系男子で1位、文系女子で3位と文系学生が多く志望している。僅差で「情報処理・ソフトウェア」(15.3%)が続く。

<就職活動継続者の志望業界（上位10業界）>

※5つまで選択 (%)

	全体	文系男子	文系女子	理系男子	理系女子
1	銀行 ② 15.4	銀行 26.0	マスコミ 16.7	電子・電機 20.9	水産・食品 42.6
2	情報処理・ソフトウェア・ゲームソフト ① 15.3	情報処理・ソフトウェア・ゲームソフト 17.2	官公庁・団体 15.8	情報処理・ソフトウェア・ゲームソフト 17.4	医薬品・医療関連・化粧品 35.2
3	官公庁・団体 ⑤ 14.4	官公庁・団体 14.4	銀行 15.4	建設・住宅・不動産 14.8	素材・化学 31.5
4	水産・食品 ④ 13.2	情報・インターネットサービス 14.6	情報処理・ソフトウェア・ゲームソフト 13.6	情報・インターネットサービス 12.2	情報・インターネットサービス 16.7
5	情報・インターネットサービス ③ 12.2	調査・コンサルタント 13.5	ホテル・旅行 12.7	素材・化学 12.2	情報処理・ソフトウェア・ゲームソフト 11.1
6	マスコミ ⑦ 10.9	電子・電機 9.9	水産・食品 9.9	機械・プラントエンジニアリング 11.8	官公庁・団体 7.4
7	建設・住宅・不動産 ⑥ 10.0	マスコミ 9.4	運輸・倉庫 11.4	自動車・輸送用機器 11.3	商社（専門） 7.4
8	調査・コンサルタント ⑫ 9.3	保険 9.3	建設・住宅・不動産 10.5	官公庁・団体 10.4	精密機器・医療用機器 7.4
9	電子・電機 ⑩ 9.0	水産・食品 8.9	情報・インターネットサービス 9.2	水産・食品 9.2	調査・コンサルタント 7.4
10	運輸・倉庫 ⑨ 8.8	教育 8.9	教育 8.8	医薬品・医療関連・化粧品 9.6	その他サービス 7.4
		証券・投信・投資顧問		農業・林業・鉱業	

※全40業界 ※○の中の数字は前年同調査の全体順位 ※「その他サービス」=介護・福祉サービス、アウトソーシングなどのサービス業

現在選考を受けている企業数は平均3.8社で、今後のエントリー予定社数は2.0社。内定の有無別に集計してみると、「内定なし」学生はこれからエントリー予定や会社説明会参加、ES提出を予定している社数が「内定あり」の2倍以上に上る。

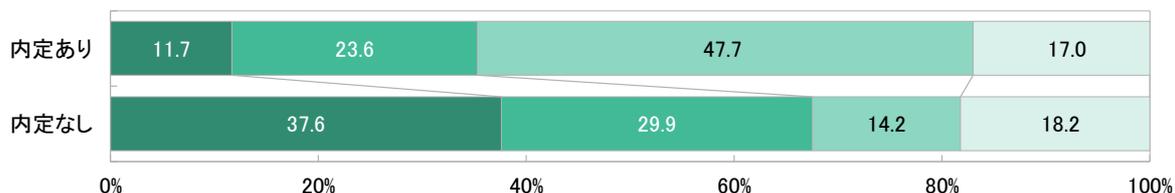
就職活動をどのように進めていくかという方針・戦略についても差異が見られる。内定を持ちながら活動する学生は「現在選考が進んでいる企業に絞って活動する」という回答が半数近くを占める(47.7%)。一方、まだ内定のない学生は「新たな企業を探しながら、持ち駒企業の幅を広げていく」が最も多い(37.6%)。内定獲得に向け、積極的に新しい企業を探そうとする姿勢が目立つ。

(社)

	全体	内定あり	内定なし	文系男子	文系女子	理系男子	理系女子
現在選考中の企業数	3.8	4.0	3.4	4.4	3.8	2.5	3.6
今後のエントリー予定社数	2.0	1.2	3.3	2.4	2.2	1.5	1.0
今後の会社説明会参加予定社数	1.8	1.0	2.9	1.9	1.9	1.6	1.1
今後のエントリーシート提出予定社数	2.1	1.2	3.3	2.5	2.1	1.7	1.1

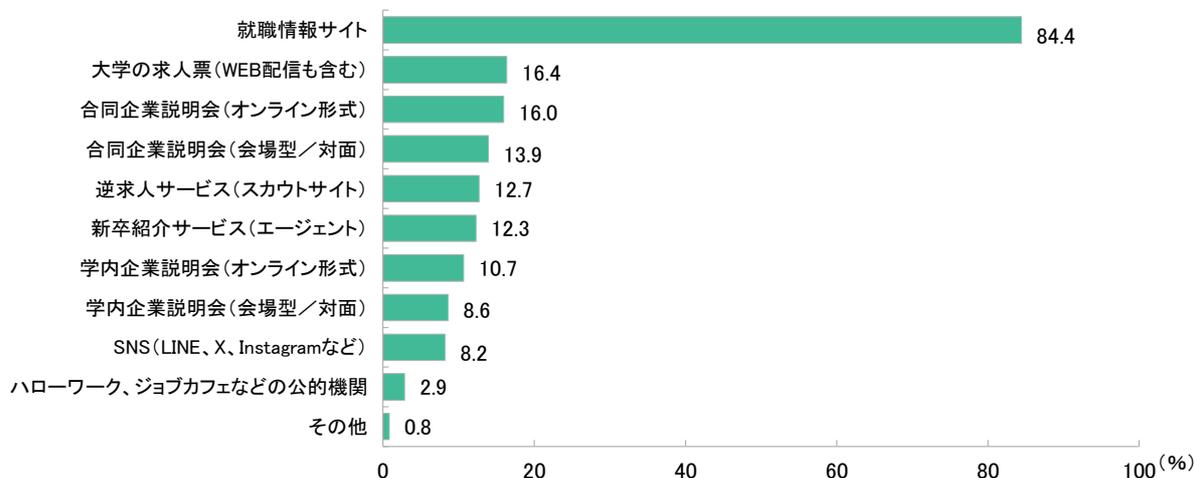
<今後の就職活動の方針・戦略>

- 新たな企業を探しながら、持ち駒企業の幅を広げていく
- これまで興味をもった企業(エントリーした企業)を中心に活動する
- 現在選考が進んでいる企業に絞って活動する
- 志望度の高い企業に絞って活動する



今後のエントリー予定社数を1社以上と回答した学生に、新たな企業を探す手段(ツール)を尋ねた。「就職情報サイト」が8割強で圧倒的に高く、企業探す主な手段として利用されていることがわかる。「大学の求人票 (WEB配信も含む)」が次点で、「合同企業説明会 (オンライン形式)」が僅差で続く。

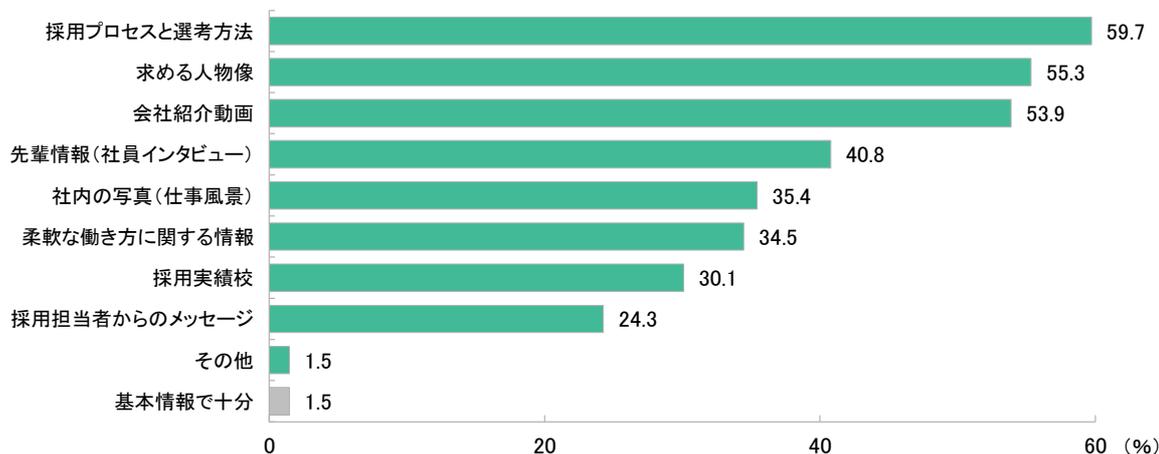
<新たな企業を探す手段>



就職情報サイトで企業を探していると回答した学生に、基本的な企業情報 (会社概要、募集要項など) 以外にどのような情報を求めているのかを重ねて尋ねた。「採用プロセスと選考方法」が最も多く (59.7%)、次に「求める人物像」 (55.3%) が続く。「会社紹介動画」 (53.9%) も過半数が選んだ。

「基本情報で十分」という学生はほとんどおらず (1.5%)、就職情報サイトからできるだけ多くの情報を得て、応募するかどうかを判断したいと考えている様子が見える。

<就職情報サイトで企業を探す際に求める情報>



■就活継続学生の声

- 選考中の企業も少なくなりつつあるので、不安と焦りがある。 <文系女子/内定なし>
- 早期化かつ長期化でしんどいのが本音。早期内定が正義ではないと自分に言い聞かせる。 <文系男子/内定なし>
- ES や適性検査を通過しても面接で緊張してうまく話せない。 <理系女子/内定なし>
- いざ内定が出ると意外と納得できないこともあり、内定保持者にもそれなりの悩みがあることがわかりました。 <文系女子/内定あり>
- この時期にまだ就活を終わっていないのは少し予想外。しかし、いい企業が多くて選びきれない。 <理系男子/内定あり>
- やることが多くて大変だが、必ず自分に合う企業は見つかると思うので頑張りたい。 <文系男子/内定あり>

7. 就活川柳

ここまでの就職活動で感じたことを、思いつまま川柳に詠んでもらった。全 558 作品が寄せられた中から、今年らしさのにじむ一例を紹介したい。

「売り手市場」と言われ、早期化が加速する就職戦線での複雑な思いなど、どれも就活生の率直な心情が表れている。

